

卒業式 お茶の水女子大学附属幼稚園

堀合 文子

当園の卒業式は、場所も方法も、よく言えば格式が高く、わるくいえば旧式と言えましようが、私共は伝統を守り続けている事にささやかな誇りも感じております。

場所は大学講堂（徽音堂）でいたします。

三月十二日午前十一時。

式次第

- 一、入場
 - 一、君が代
 - 一、卒業証書授与
 - 一、園長式辞
 - 一、お礼のことば
 - 一、卒業のうた
 - 一、退場
- 以上
- 卒業生は広い講堂の最前列から着席し、在園生はその

後に着席します。更にその後にはやはり卒業の保護者を前にして保護者が着席しますが、勿論大人の椅子のため年少組などはうずもれるようにすわっております。一四〇〇人入りの講堂の半分位の位置をしめる状態です。

壇上には、中央に演台がおかれ、その上には、黒塗のお盆の上に卒業証書がおかれています。演台の後方には枝ぶりのよい松の植木鉢がおかれ、正面からみて向って右側には園長先生、左側には担任二人が着席し、その後方にはグランドピアノの大型があり、そこには伴奏者がおります。

壇の下は幼児席との間に、右側には先生二人、左側には他の先生方が扇開きに着席します。

ポーンとピアノが奏され全員起立し、おじぎをして始まります。

君が代を一回うたいます。

“これから証書をいただきます。〇の組の女の方立ちましよう”との進行の先生の言葉に、〇の組の女の人は一列になり、壇上に上がり、右側の園長先生の席のそばに二列にならびます。ならびおわたのをみて“〇〇〇子”

と一名ずつ名を呼びます。

呼ばれたひとは演台に園長先生が立たれ、担任が介添をして前にゆき、一礼して、細くまき白いリボンでゆわえてある卒業証書を両手でいただき、更に一礼し、左側、相対する位置にならび、全員、女の人がそろつたら、先頭の人は、誰に言われなくとも壇をおりて着席します。

このようにして、卒業生は、各組男女に分かれて卒業証書をいただきます。全員終了すると、次は園長先生のお話。それがすむと、「海と山のくみの方、立ちましょう」の指示で、卒業生全員起立し、園長先生が演台に立たれると、「しょうしょをいただいて、ありがとうございます。ありがとうございました」と全員で唱和し、礼をします。

「卒業のうた」進行の先生がいわれると、倉橋惣三詞、小松耕輔曲の卒業のうたを合唱します。

「おかあ様方も立ちましょう」との合図に全員が起立し、全員一礼して式を終了いたします。

園長先生が退場、続いて卒業生が中央の道から退場します。

この間約一時間たらずで、卒業生は勿論、年少組も保護者も静かなどちらかというと厳肅な式です。

幼稚園らしいと言われないか、いや、いや、いや、大学の講堂は、人生はじめての卒業式に大きな緊張と力を与えてくれると思います。

連日、式の練習をするわけでなく、きまっている順序や、証書のいただき方は教え、計三回位は致しますが、個人独特の歩き方、証書の受取方は、ほほえましい姿です。今は自分の卒業式でもあり一しょうけんめいやるという判断は、これ又日常の保育のつみ重ねがあらわれ、二年三年の生活が思い出されます、担任も保護者も感無量のところです。

証書も大学と同じ大きさの縦約31cm、横約40cmの大きさいもので卒業証書です。大学印、園印、園長印があざやかに押されているのは人生はじめての卒業式にふさわしい重味があります。

「右は当附属幼稚園においてその課程を修了したことを証します。」

金のふちとりの中にかかれています。